

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成31年度採択）

事後評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
31-1	ETC2.0 データの活用と評価を通じた次世代 ETC の基本設計提案	東北大学 教授 井料 隆雅	A
<p><研究の概要></p> <p>本研究では、次世代 ETC システムの基本設計の提案を、ETC2.0 データを活用したケーススタディによる要件抽出、新観測技術の実道実験、匿名化や外部データ連携技術等の開発を基に、要件を満たすに必要かつ十分に、現行 ETC2.0 と連続性がある形で行うことを目指す。</p> <p><事後評価結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学術的にも実務的にも非常に大きな成果を挙げている。研究の結果、課題が浮き彫りになった点についても、実務的な代替案を提示するなど、今後の政策展開へのヒントを示している点が高く評価できる。 ・個別テーマ及び全体を通して、当初の研究目的は十分に達成している。ETC システムの高度化による各種道路政策への適用により、道路政策の質の向上が大いに期待できる。 ・説得力ある形で次世代 ETC システムの基本設計案を提示しており、また、今後改良すべき点や改良の方向性も明らかになっている有用な研究である。 ・ボトムアップ型のアプローチで現行の ETC システムの課題を包括的に洗い出し、その上で次期の ETC システムに関する研究開発を行っていることが高く評価される。 ・ETC データの活用方法と外部データとの連携による更なる活用について、その可能性を明らかにし、基本設計案に結び付けている。 ・道路政策への活用にあたり、ケーススタディから活用の方向性を明確にされ、それに基づき次世代 ETC システムの基本設計案を提案されていることから、ETC2.0 データの活用範囲の拡大と活用の高度化が見込まれ、道路政策の質の向上に資する研究結果が得られていると考える。 ・次世代 ETC の基本設計の提案という当初の目的を達成した。マップマッチングや外部データ連携等の要素技術は今後の ETC システムの改善への活用が期待できる。次世代 ETC に求める機能について更に議論を深めることにより、道路政策への活用可能性が高まると考えられる。 ・このことから、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと評価する。 <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行われた技術開発は、特に次の道路交通センサスにおいて参考になる点を幾つも含んでいると思われる。国土交通省としても、センサスシステムの検討において積極的に本成果の知見を参考にして頂くことを期待する。 ・次世代 ETC が担うべき役割は、本研究の対象以外にも様々なものがあると考えられる。例えば、ICT 交通マネジメントに向けた混雑課金、電気自動車からの走行距離課金、自動運転の支援等が考えられ、それらについてさらに議論を深め、研究を進めるべきと考える。 			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第46回新道路技術会議において審議したものである。